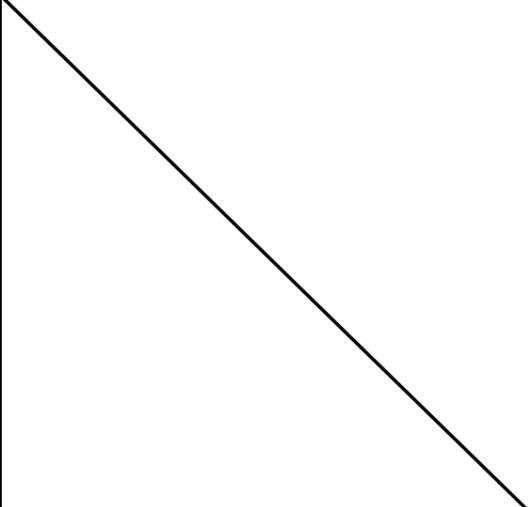


外部評価シートとりまとめ結果

当日出席委員	18名
--------	-----

施策目標	事務事業		所管課
(1) 農畜産業の振興	No.1	新規就農者定着促進事業	農林水産課
<p>(方針)</p> <p>■生産基盤の整備による農作業の省力化、耕作放棄地の防止に努めるとともに、生産・販売体制づくりの強化により、農家が農業だけで生活可能となるまちを目指します。</p> <p>■生産基盤整備、担い手の育成により、地域の特性を生かした安全・安心で高品質な農畜産物を生産するまちを目指します。</p>	必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入)	<○=18名、×=0名 >
	サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入)	<○=17名、×=1名 >
	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町の基幹産業で、次世代に向けた重要な施策と考える。移住・定住・人材育成などのにぎわい創出に必要な施策については各課横断的な連携を継続して頂きたい。また、近年の新規就農の傾向について、アンケートを実施し、次の一手を検討してみたい。 ・住居、就農をセットで効率的な推進を図って頂きたい。 ・新規就農者というところだけではなく、大きな視点で見たい。 ・新規就農者が農業を継続していけるようバックアップを強力にお願いしたい。 ・町の基幹産業として、後継者の育成支援が最も大切であると思う。今後も就農支援とともに、農業を魅力あるものにするものにしていく取り組みをさらに期待したい。 ・町民のニーズが高い事業であり、国・県の補助事業だけでなく、新規就農者の確保に向けて、町単独の事業についても積極的に取り組みを強化する必要がある。 ・意欲のある若い農業者の育成、確保につながることに期待したい。今後も新規就農者への段階的な相談体制や支援を充実させ、適切に実施していく必要がある。 ・基本的な事業目的の方向性は適正だと思う。町民ニーズの高い分野のため、しっかりと連携を図る必要がある。特に、出口戦略(販売分野)の強化に力をいれる事で、安心して安定的に生産ができると思う。 ・相談活動等による新規就農者が21人と町が積極的に関わっており、移住にもつながっているため、今後も頑張ってもらいたい。四万十社のような地元の業者を活用できればより良いと思う。 ・新規就農者確保について、結果を分析し、次年度の予算や戦略に活かしていただきたい。 ・半農半Xや農福連携などの検討、移住施策との連携もこれまで以上に取り組んでいただきたい。 ・1次産業あつての四万十町だと思うので、今後も農業人口増加への取り組みや、特産品の開発などにも取り組んでいただきたい。 ・支援制度等の実施にあたっては、少人数でよく頑張っていると思う。 	
	No.2	鳥獣被害対策事業	農林水産課
必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入)	<○=18名、×=0名 >	
サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入)	<○=17名、×=1名 >	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・とり急ぎとしての対処療法として柵や捕獲は必要であると思うが、根本的に対策していかないといけない対策(山のコーディネートなど)とセットで示されていけば安心する。 ・猟師や農家も高齢化しており、今後も柵を設置して守り続けるのに限界があるのではないかと感じる。 ・これから近い将来必ずおこるであろう食料不足に向けて、貴重なタンパク源として有効利用する手立てを関係機関とも連携して講じてほしい。(ジビエの製品化や販売経路の確立など) ・鳥獣との共存環境の整備、捕獲後の責任ある対応(食肉加工や近隣自治体との連携など)も検討是非検討をお願いしたい。 ・鳥獣被害対策が重要なことは分かるが、これからの時代、その先の取り組みも重要だと思う。 ・侵入防止柵は川沿いに設置されることも多いと思うが、人間の川へのアプローチを制限してしまう面もあるので、出入り口の設置について配慮していただくと有難い。 ・捕獲は対処療法であり、山に鳥獣の食料となるものがない現状を改善することも、それ以上に重要であると思う。広葉樹を植えて、生物に食料が提供でき、林業とも両立できる環境が整備できれば良いと思う。 ・農業に関しては被害が目に見えて分かるが、林業・漁業についてはわからない所があるので、少し対策を考えるべきではないか。 ・農業従事者にとって、鳥獣被害対策は大きな悩みであると思われる。町が取り組みを推進していることは心強く感じる。 ・鳥獣による農林業被害が増加している中で、被害の防止を図ることは極めて重要である。侵入防止柵の新設や修繕に対するニーズも高いこともあり、事業の公平性や効率化と安全面に留意して推進する必要がある。 ・新規狩猟者の確保も大切であり、公務員や団体職員などへの協力要請や高校生に対してのPR活動の実施、集落ぐるみでの取り組みも大切である。 ・今後の被害防止のため、地域の被害状況の把握に努めて頂きたい。 		
(2) 林業・水産業の振興	No.3	森林経営管理制度実施事業	農林水産課
<p>(方針)</p> <p>■森林組合等林業事業体による素材生産拡大を推進し、新たな林業従事者を増やすことにより、豊かな森林資源を持続的に活用できるまちを目指します。</p> <p>■水産資源の育成と漁業生産量の確保や加工業の育成により、安定した漁業経営が維持できるまちを目指します。</p>	必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入)	<○=18名、×=0名 >
	サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入)	<○=17名、×=1名 >
	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十町のスローガンを具体化させるには山の現状を把握し、森林のデザインを含め、どのようにコーディネートしていくのかということがとても重要だと思う。 ・間伐材を有効活用してほしい(まきや燃料・チップ等) ・森林管理は長期的な取り組みが重要だと思う。KPIを見直すなど改善を繰り返し、取り組んでいただくことを期待する。また、資源の有効活用という点でもさらなる発展を期待している。 ・経済性や効率性を売り物にして、他の地域の業者が入ってくる事があっても、資源や利益が地域から流出しないための選択をしてほしい。 ・四万十ひのきを有効活用するために、搬出道の整備に力を入れてほしい。 ・森林を守ることは、自分達の命を守ることもつながる重要な取り組みであると思う。SDGsの視点からも町が主導してくれることの意義は大きい。 ・事業の実施により、森林荒廃や土砂災害防止に繋がっている。また、四万十川流域の環境保全や水産資源回復のためにも重要な事業である。山林の整備ができにくい山林所有者も少なくなく、町民のニーズに対応していると評価できる。今後も公平で、きめ細かい継続的な取り組みを実施することが大切である。 ・四万十町は森林面積が広いので大変だと思うが、こうした取り組みがあることは心強いと思うし、防災の面からも大切な事業であると感じた。 ・SDGsの推進、森林環境譲与税の活用、先進地の取り組みの研修等を引き続き実施していただきたい。 ・森林や林業の魅力を若者に発信してほしい。 	

(16) 自然環境の保全	No.4	四万十川水産資源回復事業	企画課
<p>(方針) ■地域への愛着心と誇りを持って自然景観の価値を伝えられる人、守り生かせる人を育て、自然を保全することにより清流四万十川にふさわしい自然景観のまちを目指します。</p>	必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入) <○=18名、×=0名 >	
	サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入) <○=16名、×=2名 >	
	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面、ハード面とやることは数限りなくあり、その中での取り組みの創意工夫が素晴らしいと感じた。 ・観光に結びつけるためには、鮎にフォーカスすることは仕方ないと思うが、鮎を中心として健やかな四万十川の資源確保・回復を望む。また、他の生物も含めて現状把握と生態系の保全に努めてほしい。 ・山林事業者とも連携し、現状把握と保全に尽力できるよう予算増加など関係者が動きやすい配慮もお願いしたい。 ・給食への鮎の提供については、調理の方でも限界があるため、各学校でも焼き立てが食べられる取り組みができてこそ、本物の鮎の味を知ることになるし、心に残る味となる。できれば、保育所でも取り組んでほしい。 ・あゆ王国高知振興ビジョンとも連携し、ぜひ高知の中でもトップランナーとして積極的な取り組みを期待する。 ・大消費地へのアプローチもお願いできればと思う。 ・事後評価は高いレベルで評価されていると思うが、KPIはもう少し工夫があっても良いのでは。 ・活動そのものは良い事だと思うが、地域への愛着心と誇りに繋がるのかよくわからない面があった。 ・カワウ等の対策にもっと力を入れてはどうか。 ・鮎の稚魚放流の効果を疑問に思う。遡上あゆの大半は四万十市で捕られてしまうのではないか。 ・学校給食への鮎の提供等、町外からも取り組みが目ざされている。(消費促進にもつながっている) ・四万十川の水産資源について、漁獲量の減少傾向が課題になっている。川の状況が変化していることが原因となっていることから、愛媛県を含めた関係市町村とのさらなる連携や共同事業を行う必要がある。 ・川の石や岩、川底に土が付着したり、堆積するようになって、かなりの年月が経過している。今後は各種調査も必要であるが、調査と並行して川の状態の改善に向けた施策が重要と考える。森林整備と四万十川の保全の一体化を図る具体的な施策の実施が必要である。 ・四万十町産鮎を子供達に食べさせるイベント、企画、教育を進めて頂きたい。また、鮎のブランド化や流通に向けても取り組みをお願いしたい。 ・町P連や町保護連と連携し、子ども達へ鮎に対する教育が必要ではないか。 ・高知県の鮎プロジェクトと連携して盛り上げていけたら良いと思う。 	
(17) 低炭素・循環型社会の推進	No.5	廃棄物減量推進事業	環境水道課、大正町民生活課
<p>(方針) ■町民一人ひとりが環境に対する意識をさらに高め、町民と行政が一体となって再生可能エネルギーの活用や環境保全活動に取り組むことにより、環境にやさしいまちを目指します。</p>	必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入) <○=18名、×=0名 >	
	サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入) <○=13名、×=5名 >	
	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の生ごみ堆肥化については、コンポストの補助(山村用と都会用)、その啓発や教育が必要で、農業と同じく出口戦略として具体的に堆肥がどのように活用でき、SDGsに沿って成果をあげられるということが、町民に対して分かり易く説明できれば、普及促進に弾みがつくと思う。 ・マイバック、マイボトルなども含め関連する取り組みは、SDGsとも非常に関連する深い取り組みで、今の時代重要な取り組みと思う。子どもや町民にどう訴求するか是非ご検討いただきたい。(広報との連携も重要だと思う) ・環境という面では、合成洗剤や農薬・科学肥料がかなり環境へ負荷をかけていると思う。この事業はとても大切な事業だと思う。 ・施設の老朽化により、維持困難が想定されるとあるが、循環型社会の推進に寄与しているということであれば、修繕するようにすべきでないか。 ・町内全域での取り組みとなるように進めてほしい。 ・合併浄化槽設置への補助の拡充をお願いしたい。(効果は理解しているが、設置費用が高いため) ・生ごみの堆肥化は、SDGsの観点からも非常に有効だと考えるが、大正地区しか施設がないのは残念である。学校での栽培活動に、この堆肥を活用したいが、販売場所等のPR(周知)が少し不足しているのではないかと感じる。 ・本事業について、機会あるごとに町民に周知し、一人ひとりがごみの廃棄やリサイクルについて、適切に考え、行動することによりごみの減量化が可能となる。町民からごみ減量のアイデアを募集するなど、ごみの減量化や省エネにつながる啓発活動を実施することも考えられるのではないか。 ・行政と学校が連携して取り組める活動があって良いと思う。事業を拡充すべきである。 ・非常に良い取り組みであるので、数字だけでなく必要性も整理をし、施設の老朽化に対応してはどうか。 ・町民一人ひとりが日頃からごみ拾い等の習慣を身につけることができるよう、小中学校での教育にも力を入れてほしい。 	
社会資本総合整備計画	No.6	津波避難対策推進事業	危機管理課
	必要性、効率性の高い事業であるか	(○か×を記入) <○=18名、×=0名 >	
	サービスの対象、内容、量は適切であるか	(○か×を記入) <○=18名、×=0名 >	
	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策は喫緊の課題で、必要なものとする。一方で、援助を受けないと避難できない人のため、そもそも移住の援助など、柔軟に対応していけると良いと思う。 ・事業が終わった後に、地域住民の意見などが資料があれば評価をする際にもう少しイメージが湧くのかなと思う。 ・命を守る取り組みが行われ、安全な避難経路ができたことは非常に素晴らしいと思う。次に防災教育という視点で、専門的な知見により、避難施設等の有効活用を検討して頂きたい。 ・継続的な避難訓練の実施が必要であると思う。 ・志和地区の津波避難困難者の解消率100%は評価すべき成果だと考える。ハード面の整備が進むと、地域住民の意識も高まると思われる。 ・本地域の津波対策のニーズは高く、大規模災害が発生した場合に、迅速・安全に避難ができるように環境整備を行ったもので、事業が完了したことは評価できる。今後は、率先避難者の育成や整備した場所の点検の継続や避難生活に必要な設備等の整備も行う必要がある。 ・非常に良い取り組みだと思う。 	